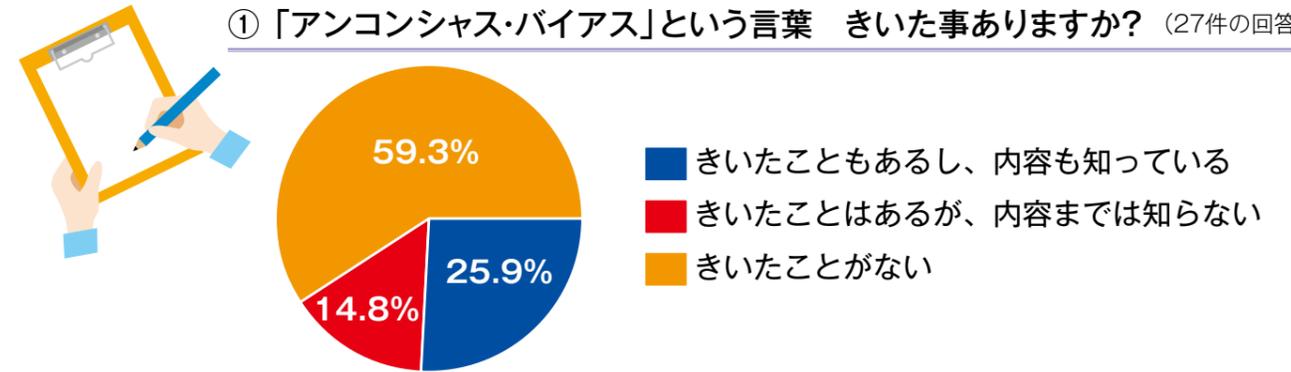


みんなのあれこれ 「アンコンシャス・バイアス」に関する意識調査

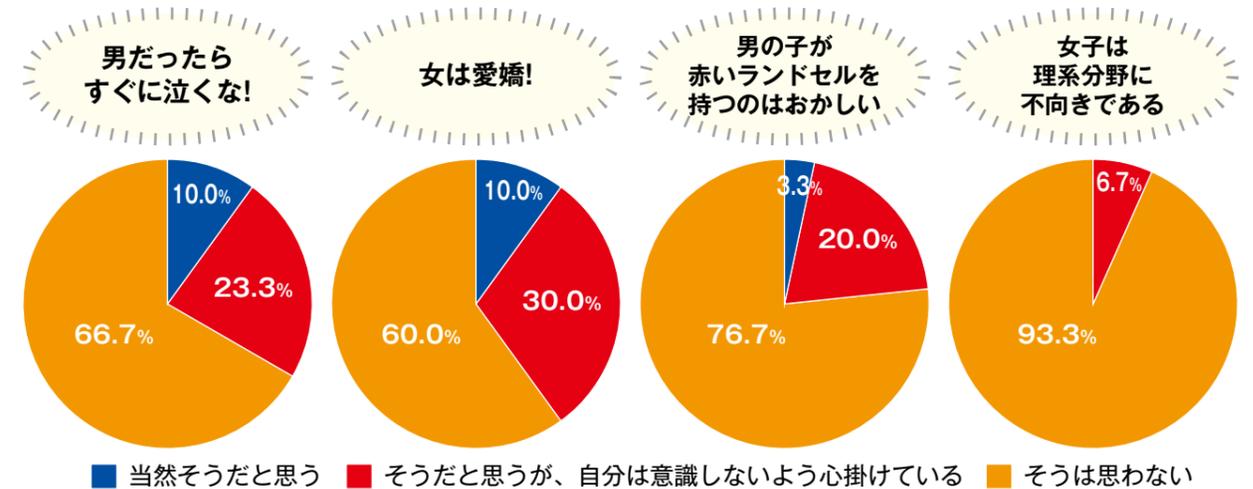
台東区男女平等推進プラザが主催する男女共同参画推進講座（令和6年度）の参加者を対象に、「アンコンシャス・バイアス」への意識調査を実施しました（全3回 回答数:31）。

はじめに「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知について尋ねました。言葉自体をきいたことがない方が全体の6割程度、言葉だけはきいたことあるという方が14.8%、内容まで知っている方は25.9%いらっしゃいました（設問①）。しかし、このように言葉自体の浸透度は低いにもかかわらず、実際は多くの方が偏見にとらわれずフラットなものを見方をしているようです（設問②）。また、自分の中にある無意識の偏見を意識して、それを他人に押し付けまいよう配慮する傾向もみられました。偏見が入り込みやすい日常生活のいくつかの場面において、自らの偏見に気づき自制するこのような実践が、「誰もが活躍できる社会」に繋がります。

① 「アンコンシャス・バイアス」という言葉 きいた事ありますか？（27件の回答）



② 誰かのこんな言葉をきいた時 あなたはどう思いますか？



③ 自分の中の「アンコンシャス・バイアス」 思い当たることはありますか？（一部抜粋）

- あります。消すことは難しいので、受け入れて、人には矯正して、傷つけたりしないようにしたい。
- 男性は競争が好きである。
- 女性一人で牛丼を食べてるのを見ると詮索したくなる。
- なよなよしている男性を見ると、男のくせに…と思ってしまいます。
- 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき。そのような昔の考え方はあります。
- お茶くみ→男性には頼みにくい。女性、それも若い人がするものだと思われていると自分自身が認識しているから。
- 男（総合職）のくせに熱で休むなんてありえない。
- 大人数で食事をする際に、女性が食事のとりわけやお酌をする流れになる。



このたび久しぶりに調理コーナーを使った大人気の料理講座が、男性初心者向けに行われました。メニューは、たっぷり野菜のスープと、ポーチドエッグを添えた鶏もも肉のソテーの二品。いずれも身近な食材を使って簡単に作れるメニューで、料理の基本を学びました。

参加者9名が2つの班に分かれて行われましたが、講師との距離感がちょうどよく、しっかり学ぶことができたようでした。

たっぷり野菜のスープでは、様々な形の野菜5種類を「色紙切り（しきしきり）」という、1cm四方、厚さ1〜2mmの大きさに切り揃えることがポイントで、それぞれの野菜に合わせた切り方を教わりました。切り方の基本を覚えることで、冷蔵庫にある余った野菜を使って作ることができず。ぜひ、いろいろな食材を使ってオリジナルスープを作ってくださいたいと思います。

また、鶏肉はとても身近な食材ですが、下処理でひと手間かけることによって、格段においしくなるそうです。余分な脂を取り除き、スジ切りと



冷蔵庫にある余った野菜を使って作ることができず。ぜひ、いろいろな食材を使ってオリジナルスープを作ってくださいたいと思います。

また、鶏肉はとても身近な食材ですが、下処理でひと手間かけることによって、格段においしくなるそうです。余分な脂を取り除き、スジ切りと

い経験となり、たまにでもいいので、また作ってくれたらいいなあ」というシエフの言葉で締めくくって終わりました。

プラザの機能強化による工事のため、最後の料理講座とさせて頂いていますが、これを機に男性の皆さんも、料理に興味を持ち、積極的に楽しみなから作ってくれたらいいなと思います。



いう下処理の仕方を教わり、各人が一枚肉の下処理に挑戦しました。徹底的に処理する人、このくらいでいいかなという感じの人など、その人なりに熱心に調理されていました。

最後に、鶏肉をカリカリに焼くコツと、付け合わせのポーチドエッグを簡単に作る方法を教わり、身近な食材でありながら本格的な料理が完成し、全員で試食しました。

今回、これまであまり料理はしてこなかったであろう方の参加が多く、ぎこちない人も、手慣れた感じの人も、和気あいあいとした雰囲気で行われました。

「食べることは楽しいこと。試食の時間も多くとれるように、ごてごてした料理ではなく、家で簡単に作れるよう、食材の調達もしやすくどこでも売っているような食材を使ったメニューにしました。本講座がい

台東区男女共同参画推進講座レポート
男性初心者向け料理講座「基本を楽しく学んで、家庭で応用しちゃいましょ」

●日時：令和6年10月5日（土）10:00〜11:00
●講師：森本 貴裕さん（atelier.cuisine）

料理初心者も家庭で再現しやすいレシピを学び、日々の食生活をより健康的にするための知恵を教わりました。ワークショップを通して、準備から片付けまで、参加者が料理の基本的な工程を学ぶ機会となりました。

気になる数字

総務省HP「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数のポイント(令和6年1月1日現在)」によると、台東区の人口増加率が市区部で全国1位になりました。数字でみると、台東区の人口増加率は+2.37%、うち日本人の人口増加率は+1.28%です。令和6年10月1日現在では、台東区の人口は21万5535人(女10万5808人、男10万9727人)で、うち外国人は1万9871人なので、だいたい11人に1人の割合です。

人口の減少が続く日本ですが、区市区部で台東区が全国1位になった理由は何なのでしょう。台東区のホームページの「台東区長期総合計画」や「台東区人口ビジョン」には、「世界に輝くひとまちたいとう」という将来像のもと、人口水準の維持・確保のための出産・子育て支援、就労支援、環境整備、地域産業の活性化、まちの魅力づくりといった人口に関する施策などが公表されています。

浅草や上野をはじめ人をひきつける観光資源があり、隣接する中央区や千代田区と比べて生活費の相対的な割安感なども、人口増の一因かもしれません。約30年前に台東区に移り住んだ本稿の書き手の実感でもあります。

【総計】人口増加率、自然増加率、社会増加率の1位（令和6年1月1日現在）

	市区部	町村部
人口増加数	大阪府大阪市 (+16,055人)	北海道倶知安町(くっちゃんちょう) (+869人)
人口増加率	東京都台東区 (+2.37%)	北海道赤井川村(あかいがわむら) (+22.33%)

【総務省HP「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数のポイント(令和6年1月1日現在)」】

